

オリジナルの販売ツールを製作し、
丹後シルク生地で欧州へ本格進出

宮眞 株式会社

取締役 宮崎輝彦さん



宮崎輝彦さん

シルクと和紙糸の交撚・交織で勝負

宮眞 株式会社は明治年間の創業で、主に、帯揚げや衿など和装小物用白生地の製織を手がけてきました。和装市場に陰りが見え始めた昭和50（1975）年ごろ、広幅服地分野に進出。平成6（1994）年には服地製造卸の「ムックテキスタイル事業部」を京都市下京区に開設し、現在では服地の割合が売上げの8割以上を占めています。事業は海外にも展開。数年前からパリやミラノでの展示・商談会に積極的に参加し、自社製品の認知度を高めてきました。

「販売戦略・拠点はほぼ整い、ヨーロッパの高級メゾンに太いパイプがあるエージェントも現地に置いています」と語るのは同社取締役の宮崎輝彦さん。

海外戦略が軌道に乗ったのは5年ほど前。丹後のシルクを使った交撚や、交織糸使いのちりめん服地を全面的に打ち出したことがきっかけとなりました。宮崎さんは、丹後のシルク織物が、「非常に緻密でキズが少なく質がよい」と国内外で高い評価を得ていること、また、撚糸を使った完全なちりめんは日本でしか作れないことなどに着目。独自性を出すため、シルクと和紙糸の交撚・交織生地の開発に取り組み、最近では、立体感溢れる生地から繊細で細やかな表情の生地まで幅広く提供できるようになったといいます。ヨーロッパのオートクチュール、プレタポルテをメインターゲットに、40代以上の富裕層を最終顧客に想定して、さらに広く確実な販路を得ることを目指しています。



宮眞の生地で作られた海外ブランドの洋服

丹後で培った高い技術力を生かして

実はシルクと和紙糸の交撚は技術的にかなり難しく限られた機械でしか加工できません。交織においても織り組織

伝統製品の活用

や配列にこだわるなど、「弊社の技術はたいへん優れていると思います。日本国内でもこの取り組みに成功しているのは、おそらく弊社のみではないでしょうか」と宮崎さんは胸を張ります。もちろん、ヨーロッパで認められるため、技術以外にもさまざまな企業努力があったことはいまでもありません。たとえば色。日本古来の色はきれいですが、ヨーロッパのファッション嗜好に合わないということで、染め工場を何軒もあたり、現地で好まれる発色のできる工場を採用。また、生地の幅も海外仕様の130~140cmにするなど、習慣の違いは宮眞側が全面的に合わせることにしました。また工程が多くどうしても値段が高くなる分、受注量を少なく設定して融通を利かせる努力もしたといいます。

高い技術力を生かした新しい生地は、こうしてヨーロッパで認知され、ドレスやワンピースなどに仕立てられ、レディースを中心に海外のアパレル業界で高い評価を得るようになりました。

ヨーロッパ市場における丹後シルク生地の浸透を目指し、宮崎さんはファンドを利用して、生地見本や色サンプル帳などオリジナルの販売ツールを製作しました。アパレル会社を訪ねてプレゼンテーションすることが多く、その際、生地の魅力をアピールできるツールが必要と常々痛感していたからです。「デザイナーと一緒に材質から決めてきました。結果、台紙は黒をベースに、文字はシルバーにして高級感を演出しました」。ヨーロッパの規格に合わせながらもオリジナリティある販促ツールは、「すっきりとして見やすく重厚感もある」と評判に。ファンド採択後すぐの2010~2011年秋冬用素材に使用したところ、早速、見本反依頼があったそうです。そのうち1件からバルクオーダーも入りました。「効果的な販促ツールを用い、生地の風合、色合、素材感をターゲットとするバイヤーなどのお客様に実感してもらうこと、生地をよりよく見せることの重要性を改めて実感しました」と宮崎さんは言います。

今後は、生地を見た感想や、ヨーロッパで今、求められている素材、色などの情報収集を強化し、メールなどの電



商談中の宮崎さん

子媒体を活用して、「スピーディな新商品開発へとつなげていきたい」と販促ツールの有効利用を考えています。なかでも「色」はファッショントレンドの重要な要素。ニーズに応え続けることが求められます。「いかにヨーロッパのデザイナーが受け入れやすい商品を作るのが課題です」。

新感覚の商品を生み出したい

将来は、「こんな風合いの生地は今までなかった」と言われるような、新しい素材感をもった商品づくりにもチャレンジしていきたいといいます。「シルクはデリケートな素材なので、工程の中の湯を通す時間を少し変えるだけで、ハリが残ったり、くたっとなったり、質感が変わるんです。そういう変化を生かした商品も試していきたい」。実際、シルクと和紙糸の交織生地で作られた海外ブランドのドレスが、国内のファッション誌のページを飾り、「海外で使われた生地」に対する問い合わせが増えたといいます。「丹後シルクが国内でも再評価されるようになればうれしいですね」。さらにこの事業が地元活性化につながることも期待しているといいます。「世界的に展開する高級メゾンのオーダーは、時として相当量の受注につながります。弊社だけで対応しきれないときは、地元業者に協力してもらいたいと考えています」と宮崎さん。

シルクと和紙糸の交織などの商品は、イタリアや中国などのシルク織物とは一線を画するという強みもあり、大きな可能性を秘めているといえるでしょう。



事業概要

宮眞 株式会社
http://www.tango-miyashin.com/
代表：宮崎晃司
業種：白生地製造卸（主に服地）
創業：明治年間 設立：昭和25（1950）年
住所：〒629-2262
京都府与謝郡与謝野町字岩滝 1166
TEL：0772-46-2059 FAX：0772-46-5176